



恵明新聞

No.115

令和5年6月2日発行

明るい未来

令和五年五月三日

静岡県三島市笹原新田にある静岡恵明学園児童部において、三年ぶりの不二見地藏尊祭が行われました。龍沢禅寺でご修行中の雲水の皆様による読経の中、参加した大人と子どもがお堂の前で祈りをささげました。五月晴れの空の下、新緑につつまれて、時折鳴く野鳥のさえずりに初夏のすがすがしさを感じました。児童養護施設と子ども園の職員、そしてボランティアの方々も催す模擬店はおいしそうなおいを漂わせていました。楽しそうな会話、笑い声がかかしこに沸き上がる様子にやると人が普通に会話する日が来たことを実感できました。普通の生活のありがたさを改めて強く感じました。そして不二見地藏堂にまつられている静岡恵明学園がお世話になった物故者の皆様への感謝の念を感じずにはいられませんでした。新型コロナウイルス蔓延の為に思い描くことが難しかった明るい未来への希望を子ども達に取り戻してほしい。すべての子ども達がこの世に生まれ喜びと自己肯定感を持って成長できる世の中が訪れてほしいと強く願います。

社会福祉法人 静岡恵明学園

理事長 杉村 伸一

もみじの家 だより

春を感じて

窓から見える桜が散り、赴任して二度目の春を終えたことに気付く。新たな環境、新たな出会いに期待と不安を抱えながら過ごした二年。分らない事はかりで慌ただしく毎日を送りつつ、その日々の生活の中から子どもと関わることの難しさや楽しさを実感することができました。何度もなくじけそうになりましたが、子どもたちの笑顔が僕を前向きにさせてくれ、子どもとともに成長することができたと感じています。

一年目から担当しているAくんは内気で勉強が苦手。本当は外で遊びたいけどなかなか外に出ることができません。そんな姿を見て、積極的に外に誘い出し、野球やサッカーを教えるとみるみるうちに上達し、今では僕がへとへとになってしまっほです。



静岡恵明学園 児童部

苦手な算数の計算は手を使わなければならず、漢字の書き取りも大嫌いだつたのに、今では分数も小数の計算もできるようになって、用意した漢字テストも満点を取るようにになりました。この一年間でいろいろなことができるようになっていくA君を見るたびに、子どもの成長の速さを実感するのと同時に、この仕事のやりがいにつづくことが出来ました。



赴任して二年目を迎え、より責任感を持つて行事の企画や職員としての在り方を考えることが増え、相変わらず悩みごとには絶えませんが、それでも子どもたちと関わり、たくさん笑ったり、時には怒ったりしながら一緒に成長していきたいと思います。悩んだ時に相談に乗ってくれる先輩方にも恵まれ、壁にぶつかっても何とかなると思える環境にも感謝しています。

そんなことを考える春でした。
大石駿翔(児童指導員)

さくら の家 だより

やんちゃ家の 自称シンデレラ

みなさんは知っているだろうか。二年前の春、自称シンデレラがさくららの家に赴任したことを。

「そんなやつ知らねえよ」と思う方もいるであろうから簡単に紹介したいと思う。名前は蛭原。口癖は「かわいくてごめん」。赴任時には既に保育士としてはベテランの域に達しているにも関わらず



「私には出来ないもん」と、いつも自分を卑下している。ただそう言いながらも着実に仕事をこなしていくのが憎いところである。「テスト勉強した?」と聞かれ「全然してない」と言いながらも高得点を

地域小規模 児童養護施設

平気なたたき出すタイプと同類である。彼女の下のについて働くことになったらプライドもズタズタになりかねない。とまあそんな紹介はさておき、そんなかわい自称シンデレラの姿は見る影もなく、さくららの家には立派な肝つ玉母さんが爆誕したのである。さくららの家では思春期真っ盛りの中高生男子たちが生活しているが、その荒波の中でお姫様はお母様へと変貌し、今では彼らの思春期特有の苛立ちや口の悪さも意に介さず、肝つ玉母さんぶりを発揮している。「母は強し」と言うが、まさしくその通りである。子どもたちにとつてそ

んな肝つ玉母さんの存在はかけがえのないものになるはずである。時折、シンデレラの姿も見せつつ(あるかどうかは分からないが)子どもたちの成長をこれからも見守つて欲しいと感じた今日この頃である。
溝口翔平
(児童指導員)



はなみずき の家 だより

ドキドキのお引越し

駐車場の小さな植木鉢に、大きくて真っ赤なイチゴが実りました。見ている子どもたちの目が輝いていました。その姿を見ていて、四季がある



地域小規模 児童養護施設

自然の中で色々な物を目にし、時には手にして体中で感じながら生きるって本当に幸せなことだなあって、改めて感じさせられる瞬間でした。四月から、お引越しして、二名の幼児さんが山のお家へ、そして新二年生が二人こちらにやってきました。少し年齢層が高くなった分、落ち着いた時間帯も増え、お部屋の散らかりも少なくなつて見え



「大丈夫だよ」と肩に手をやりながらこの子は、ここに来るまで心の中で葛藤を繰り返しながらやってきた事でしょう。Y君だけじゃない、山にお引越しした

幼児さん二人もきつと思いは一緒だったでしょう。翌日のY君は、笑顔も見られたので、少し安心。きつと先輩お兄さんたちが、優しく受け入れてくれたことで、安心できたのだと思えました。
この家に来て良かったと思えるように、私も子どもたちにとっては、おばあちゃん存在ですが、教えたり、教えてもらったりしながら和気あいあいと日々送る中で自分の身の回りのことが、面倒くさがらずに、根気よくできるよように、サポートしていきたいと思えます。
岩永敏子(保育士)

児童家庭支援センター スマイル だよ

少しずつ、前進

令和5年2月15日静岡県東部児童相談所主催にて「社会的養護自立支援事業に関わる連絡会」が開かれました。中学生以上を担当するケースワーカーと児童家庭支援センターの自立支援担当と里親支援担当が出席して自立支援事業についての理解を深めていく、情報交換する機会を持ち、今後も継続して定期的に協力関係を深めていくという大変意義のある事を討議・確認できました。これまでも、それぞれの担当者の方とは、ケースの話し合いをしてきましたが、児童相談所として全体的に協力関係の後押しをしてもらえる。これは、本当にありがたいことだと実感しました。

2年生の子にも会って話をします。高校への進学や将来の進路の希望を聞きながら、準備できることも探していきます。本人の希望や本人をとりまく環境や施設・里親さんの意見・思いも伺います。それと共に自立への生活を築いていくための方法を児童相談所の方針のもと、本人の生活への手伝いをしていきます。こどもがより良き自立生活をしていけるよう、ケースワーカーさんとの連携・協力を丁寧に誠心誠意していきたいと思えます。

静岡恵明学園との出会いから

平成24年の夏と記憶しています。前職場の沼津市立病院の時でした。生まれて数日の児が乳児院静岡恵明学園へ入所するケースが続きました。この児たちはこれからどうなるのかと空しい気持ちで伝わり、小児科医師を通して赤ちゃんセンターの施設見学が叶いました。見学の中で園長先生の講話では「どんな児も罪はない。生まれ



愛情をいっぱい受け、温かい家庭の中で育つよう子育て支援・里親支援を進めていく」と熱く語って下さいました。参加した十数名の皆が安堵したのを覚えていました。

この10年後の令和4年より、児童家庭支援センタースマイル勤務と繋がっています。スマイルでは、社会的自立支援と里親支援、私に関わっている地域子育て支援と3つに区切りつつ共有しながら活動しています。

これまでの30年の病院在職中に、出産介助で関わったのは800件です。無事出産と母親の育児デビューを目指し、妊娠中より産後一ヶ月の間が主な活動対象でした。

そして、スマイル入職当初ではこれまでの福祉業務が少なく、日々の事務所内で飛び交う専門用語・略語が聞き取れず、理解することが課題でした。現在、地域子育て支援

の関わりでは、参加しているママが次の妊娠中であるというケースが少なくありません。私にとってもお役に立てるチャンスとワクワクしながら勤務させていただいております。

伊東 和子(助産師)

里親支援に携わって

スマイルへ入職して二年が経過しました。私たちがしている主な業務は里親子支援です。里親部門は県から委託を受け、東部地域の2市町と賀茂地域6市町で計18市町が管轄で広域に飛び回っています。乳児院から里親の元へ委託される子もいれば、親元で生活をしていたけれど虐待や貧困、親の精神疾患などが理由で保護され、里親へ委託される子があります。児童相談所の職員と連携して電話相談や家庭訪問をするなどして細やかにフォローをしています。移動距離はあつて腰痛持ちには大変ですが、何よりも嬉しいのが子どもの笑顔です。子どもの成長を里親と一緒に喜びを分かち合えるのはやりがいにもつながります。癒されて疲れは吹っ飛び支援者側の心も満たしてくれます。委託前のマッチングの時には表情が不安や緊張

で硬くなっていた子が無邪気に里親の元で生活できている様子を見て安心できます。しかし、里子は発達の障害を抱えていたり、愛着の障害を抱えている子が多くいます。委託後に様々な表われが出ることもあります。里親は困り事があつても抱え込みやすい傾向にあります。本音を引き出すかわりを目指すために、お互いの顔が見えた関係を目指し、信頼関係をしっかりと築いた支援を志していきたいと思えます。

佐藤 大三 (里親等相談支援員)

田中さんと学園との繋がりは前園長加藤秀郷先生との出会いがきっかけで、学園に来て子どもたちと味噌作りをするようになってから年月が流れ、今では四月の味噌作りは学園の恒例行事となっている。コロナ禍で数年間学園できなかつたけれど、今年久しぶりに来園して、子どもたちと味噌作りを行うことができた。



田中さんは「みそのみゆき」の名前で「Domiそくらぶ」を運営し、手作り味噌や食の大切さを伝える活動を行い、「二〇二二年には「食育推進ボランティア表彰内閣府特例担当大臣表彰」を受賞したり味噌作り教室の拠点「楽しみそ」をオープンしたりするなど活躍されている。「誰でも簡単・楽しい・おいしいみそづくり」を合い言葉に手作りの楽しさを伝えている。

そんな精力的に活動

恵明 七夕祭り
子どもから大人まで楽しめる「恵明七夕祭り」が久しぶりに開催!ぜひお出かけください
令和5年7月2日(日) 午前11:00~
静岡恵明学園/児童部園庭

田中さんと学園との繋がりは前園長加藤秀郷先生との出会いがきっかけで、学園に来て子どもたちと味噌作りをするようになってから年月が流れ、今では四月の味噌作りは学園の恒例行事となっている。コロナ禍で数年間学園できなかつたけれど、今年久しぶりに来園して、子どもたちと味噌作りを行うことができた。

田中 美幸さん
味噌作り
いつもありがとうございます

田中さんと学園との繋がりは前園長加藤秀郷先生との出会いがきっかけで、学園に来て子どもたちと味噌作りをするようになってから年月が流れ、今では四月の味噌作りは学園の恒例行事となっている。コロナ禍で数年間学園できなかつたけれど、今年久しぶりに来園して、子どもたちと味噌作りを行うことができた。

田中さんは「みそのみゆき」の名前で「Domiそくらぶ」を運営し、手作り味噌や食の大切さを伝える活動を行い、「二〇二二年には「食育推進ボランティア表彰内閣府特例担当大臣表彰」を受賞したり味噌作り教室の拠点「楽しみそ」をオープンしたりするなど活躍されている。「誰でも簡単・楽しい・おいしいみそづくり」を合い言葉に手作りの楽しさを伝えている。

そんな精力的に活動

赤ちゃんセンター



「こども達と一緒

桜の季節は終わってしまいましたが、この時期ならではの花が咲き誇り私達の目を楽ませてくれます。

言葉が出始めたこども達とのお散歩中、色とりどりの花を見ては「ピンク」「あか」「きいろ」と言い合ひながら、大切な時間を過ごしています。いつものお散歩コースのルーティンは、まず犬を見て、メダカ、猫、鶏などを見せてもらおう事です。のんびりゆつくり富士山の見える広場へ行きます。タンポポの綿毛を摘んで「プー」と吹く真似をするもの、上手く吹けず口まわりについてしまったり、見せにくる間に風で



飛んでいてしまいがちですが、それでも気付けず茎だけに大切に持っていたり、なんとも微笑ましい姿であり、可愛い姿です。てんとう虫を見つけたといえ、そと指を差し出し追わせようとする赤ちゃん。対照的に必死に草むらをかき分け、どんどん奥へと追いこんでしまうSくん。「あーあ」と残念そうに、別の場所へ移動しチャレン



先日育児中のお姉さんが遊びに来て「子育て楽しいです」と我が子を見つめる姿が本当に素敵でした。幸せを分けてもらいました。

ジれています。こども達の二つの行動と成長に毎日感動の連続です。日々色々な表情を見せてくれるこども達に、寄り添う事ができて本当に幸せです。



この春、入園・入学の挨拶に児童部の子たちが来てくれました。その中で中学へ入学した男の子一人と女の子三人は乳児室へ入って、乳児さんの子供たちと二緒に遊んでくれました。中学生のTくんへべつたりくつついて離れない小さい子組のSくん。お膝を独占してしまいました。欲しい玩具を取りにお膝から離れても、Tくんが受け止めてくれるとの信頼から後ろを振り返ることなくお尻からTくんの膝へ戻っています。

大きくなったね

自分自身の子育ては終わってしまいましたが、初心にかえり、愛しいと思う気持ちと、受け止める広い心と笑顔を決やらずに過ごしていこうと思います。 遠藤 富美子(保育士)

お日様いっぱい草むらには子ども達の好きなダンゴムシやテントウムシがいっぱいいます。 大きい子組は、いつも元気な声が聞こえます。「みて

カタツムリさん

小野 友子(保育士)

「なにかいるよ」の声に誘われてみると、カタツムリに出会いました。あつという間に、大勢集まり場所取りに、大はしゃぎです。キャベツと人参を頂いてカタツムリをのせました。

「みて、カタツムリさんいよいよ...かくれんぼ しているのかなあ?」と心配そうに見ていました。今日は、果物の容器にキャベツと人参を入れてあげ水も少し垂らしてあげたらニヨッキ、ニヨッキ、つのだせやりだせ あたまだせ とリズムに合わせて歌っています。そんな時「あれなに?」とRくんの観察力のすごさ。 ウンチを



「ほんとだーダンゴムシも、てんとう虫も、

はらへこあおむしもウンチするんだよね」とMちゃん。その場の会話が弾みました。 数日間毎日のようにカタツムリを見ては、子ども達との会話を楽しんでいました。「みてみて、カタツムリさんおなかすいたんじゃないの」「キャベツより人参が好きなのかなあ、オレンジのウンチあるよ」 子ども達は、毎日の生活の中で見たり聞いたり触ったりしながら、自然に吸収し成長している事を改めて感じました。

佐藤 陽子(保育士)

恵 明 保育園

寄り添って

今年度、私は二歳児クラスを担当させて頂いています。新しく入園した子ども達にとって何もかもが初めての保育園生活。泣いていた子ども達も少しずつ慣れ、抱っこをすると泣きやんでくれるようになりました。最初は泣くのを我慢していた子は少しずつ「抱っこして」と甘えてくれるようになりました。信頼関係が築け始めてきたように感じられ嬉しく思います。名前を呼ぶと笑顔を見せてくれたり、両手を広げると歩いて来てギューとしてくれる時も私の幸せな瞬間です。子ども同士でも顔を見合わせながらニコッと笑い合う姿が見られ、これからのような関わりが生まれるのか楽しみです。

そんな子ども達は今、「トントントントンパンマン」の手遊びが大好きです。最初は見ていただけの子ども達でしたが、今では手をグーにして一緒にトントントンとやったり、最後のランランランほくチーズの後の「ワン」のかけ声を大きな声で言うようになってきました。「もう一回」のりくエストもあり大人気です。この数ヶ月、子ども達は泣きながらも保育園での生活を一生懸命に過ごしてくれました。泣いているお顔も可愛くて愛おしい、まだまだ小さな子ども達。たくさん泣いた分、これからは子ども達の好きなことをもって見つけて一緒に笑っていられるように、子ども達に寄り添った保育をしていきたいと思えます。

秋津 史絵(保育士)



春風は魔法の風

ほんわかふんわか春風が吹き桜が満開となり今年度も〇才児さんを受けもつ事となった。春になると毎年思い出す：我が子の幼稚園入園の時の切なかつた気持ち。が今でも蘇える。泣き叫ぶ子を先生に託す瞬間は私も涙がこぼれそうに心が折れかけた。先生は優しく「大丈夫よ。最初にいっぱい泣ける子がいいのよ。鳥さんにご飯をあげに行こうね。」と毎日辛抱強く温かく受けとめてくれた。今年も可愛いまんまるお目めをキラキラさせて新入園児さんが来てくれた。ママとの離れ際には口をキュッと真一文字に締めて我慢するものの全力で泣いてしまう。「そうだね。ママがいいよね。泣いていいのよ」とキュッと抱きしめる。部屋は涙合戦となる。泣いてしまう子



は無理に遊ばせずに抱っこで様子を見る。おんぶでヨイヨイしながら歩いてみると背中でおしやべりしてくれる様になり徐々に心を開いてくれる。「大丈夫よ。安心してね」と声をかけ私は慌てずにどうしりと構えるように心掛けている。焦らず急がずゆっくりね。一週間経つと驚くほど皆泣きやみ遊べるようになる。部屋が静かだと不思議なくらい穏やかだ。子どもの力つてすこい!! 初お散歩に出ると心地良い春風が頬を撫でてくれ皆笑顔になりました。とてもいいお顔になる。春風は魔法の風だ。嬉しいね。気持ちいいね。小っちゃいお手てをフリフリして喜んでくれる。色とりどりのお花やもしろちよう。鳥はさえずり空を見上げるとヘリコプターが飛んでいく。みんんな子ども達を応援してくれている。もち

かわいい笑顔

ろん、そよそよ春風も。荒井 真弓(保育士)

登園するとおもちゃを抱えて自分のシールのイスへ座り、朝の会では大きく口を開けお歌を歌い、毎日元気な笑顔を見せてくれる子ども達。私の心がほっこり温かくなります。そして新しく四名の子ども達が大い子組さんへ入ってくれました。毎朝、ママとの離れ際に大泣きしてママとバイバイ。初日はママも目をウルウルさせ「ママもがんばるからがんばろうね。」と言っていました。子どもはお姉さんにギューと抱っこされる中で、心配そうにみんなを見つめていました。少しづつ安心して心を開いてくれ



た時の笑顔は、私もホッとした一瞬でした。毎日の遊びや集団生活の中で嫌々と泣いたり「ダメー」と怒ったり、「どうしたの?」とお友だちを心配したり。自分の感情や気持ちを言葉で表現して心も体もすくすく育っています。大きい子組さんになるとお友だちとの関わりも増え、おもちゃの取り合いでケンカしてしまうこともあります。でもその経験からお友だちのことを考えて「ごめんね」「いいよ」と優しく声もかけられる

ようになります。かつこい大きい子組さんの成長をたくさん見ることができまます。近くで子どもの成長を感じられ、保育者にとってよかったです。この一年子ども達にたくさん遊び、楽しんでほしい。今日も保育園楽しかった。明日も行きたいなあと思ってもらいたい。子ども達が笑顔で過ごせるように、がんばりたいです。

小松 麻美(保育士)



もり 宮さんの杜通信

2023. 4

暖かい春の陽気になりました。外にお散歩に出かけ、元気にたくさん体を動かしましょう。
今年度も親子の触れ合いを大切にしたいと、工作やリズム遊びを行っていききたいと思います。どうぞお気軽にご利用ください。
今月は5月5日のこどもの日にちなみ、「おやこでこのほり」を予定しています。このほりの製作をして、おうちをうたって楽しみましょう。



* ちょこっとコラム ~ 春の野菜 ~ *

暖かい春の陽気にはお弁当を持ってピクニックに行くのも楽しいですね。
お弁当には栄養がたくさん入った旬の野菜を取り入れてみてはいかがでしょうか。
ビタミンCが豊富で胃腸の調子を整えてくれる春キャベツや、イライラを鎮める効果があるとされるセロリ。またタケノコやグリーンピース、「おべんとうのうた」にも出てくる「ふき」には食物繊維があり、便秘を解消する効果もあります。
花冷えの季節で急に寒くなることもありますので、栄養をしっかりと摂って元気に過ごしましょう！

● 三島市大宮町2丁目2-11 tel.055-991-0010



じゃじゃまる通信

2023. 4

子どもたちのかわいい笑顔に誘われ、さくらの花びらが舞い降りてきました。
令和5年度じゃじゃまるもスタートしました。それぞれの季節を感じ、また、様々な素材を取り入れながら、楽しい活動を計画しています。
皆さんのご協力のもと、引き続き感染対策をしっかりと、安心して利用して頂ける場を設けていきたいと思ひます。ぜひ、遊びに来てください。

ちょこっとコラム



色とりどりの花が咲き乱れ、野鳥がさえずる季節になりました。
あちらこちらに春を見つけることができます。
のんびりとお散歩に出かけると、色々な発見ができますよ！！



● 恵明キッズフヨウビレッジ内
三島市芙蓉台2-3-17 tel.055-987-7922



フリッパー通信

令和5年4月

春の日差しの中、上岩崎公園の桜も見ごろを迎え、新しい気持ちと共にフリッパーがスタートしました。今年度も沢山の地域の方々との出会いを楽しみに、親子のふれ合いの時間を大切にしていきたいと思ひます。ぜひ遊びにいらしてください！



* ちょこっとコラム ... 肌トラブル

4月になると寒さも緩み、日中お外で遊んでいると汗ばむ子も出てきます。アトピー性皮膚炎などで肌がカサカサしやすい子の中には、汗をかくとかゆみがひどくなってしまう子もいます。かき壊すと、とびひに感染することもありますので、調節のしやすい衣服で過ごしましょう。



● 恵明キッズサクラビレッジ内
三島市文教町2-28-6 tel.055-943-6878

子育て 支援センター

それぞれの子育て支援センターの
“子育て支援センターだより”を紹介します。
地域の子育て親子さんたちが多数訪れ、
楽しく過ごしています。
今年度も楽しく利用できるよう、イベント等
用意し、スタッフ一同お待ちしております。

利用日:月曜日～金曜日
10:00～16:00
子育て相談、園庭開放も随時



ぽこ通信

2023. 4



春風に誘われるように、色とりどりのたくさんの花が咲き、暖かい日差しが心地よい季節となりました。明るいおひさまの光のもと、きれいなものを見たり、感じたりすることで私たちの心も豊かになっていくよううれしくなりますね。
今年度の「ぽこ」も引き続き感染症対策をしながらたくさんさんの笑顔に出会えることを楽しみにしていきたいと思ひます。
どうぞ、よろしくお願ひします。

★ ちょこっとコラム ★

～おいしいいちご～



春を告げる果物といえば、いちご。江戸時代後半にオランダ人が日本に持ち込んだとされています。いちごにはビタミンCやキシリトールが多く含まれています。いちごは先のとがった方が甘いのでへたの方から食べ、後で先の方を食べるとより甘みを感じるそうです。一度お子さんと試してみてくださいね。

● 恵明キッズコスモスビレッジ内
三島市谷田1629-38 tel.055-973-7778

ローズ通信

2023. 4



園庭に色とりどりの花が咲き、春風が心地よい季節になりました。
新年度が始まり、マスクの着用が緩和されて子どもたちの笑顔がたくさん見られるようになりそうです。
子育て支援センターローズでは、今年度も地域の親子に寄り添い、笑顔が溢れる嬉しい場にしていきたいと思ひます。是非一度、遊びに来て下さい。

★ ちょこっとコラム ★ ~ 横断あそび(ちょうちょう) ~

「ちょうちょう」のうたに合わせてスクarfで遊ぶ横断あそびです。おうちにあるスクarf等をひらひらさせて、「さくらにとまれ」の部分をおかあさん「お部屋にあるもの」「〇〇色にとまれ」や「行ってほしいところ」などに言い替えてみて親子でぜひ楽しく遊んでみて下さい。



● 恵明キッズローズビレッジ内
駿東郡清水町堂庭89-16 tel.055-943-5519

恵明キッズ

フヨウ
ビレッジ



憧れの年長組

新年度になり一カ月がたちました。子どもたちは、憧れの年長組さんになり日々、胸を弾ませています。まだ、二階での生活に慣れていないすみれ組さんにお着替えやお支度の仕方を優しく一つ一つ教えてあげている姿は、とても頼もしく頼りになります。お外へ行けば、つくし組さんに靴を履かせてあげたり、一緒に手をつないでお散歩をしたり優しい気持ちで接することの大切さを日々の生活の中で自然と身につけてきています。



私自身今年で三回目の年長組の担任となりました。今年のふよう組さんは、恥ずかしがり屋の子が多くこの二年で様々な体験を通して自信をつけられるようにしていきたいと思っています。二年後の卒園式の時には、たくましく成長した姿をみんなに見せられるように、そして堂々と胸を張って小学校へと送り出せるよう私自身も一人一人にしっかりと寄り添い日々の保育を大切にしていきたいと思います。

柴崎 育実(保育士)

すみれ組さん

いよいよ新しいクラスでの二年がスタートしました。私は今年度すみれ組を担当させていただいています。子どもたちは期待と不安を持って進級し、新しいお部屋・自分の机・お道具・ブカブカの制服と沢山のはじめてを経験しています。朝のお支度やお着替えはふよう組のお友だちに手伝ってもらいながら、頑張ってお支度しています。少しずつ生活の流れを覚えてきて「自分でできたよ」と嬉しそうに教えてくれるようになりました。まだまだ制服のボタンがズレいたり、上履きが左右反対だったりすることもありますが、その一生懸命さがとてもかわいいです。お部屋での自由あそびの時間にはワクワクした様子で粘土やクレヨンを出して表現あそびを楽しんでいきます。特に粘土あそびでは子どもたちの想像力、見立て力に驚かされます。大人は「これを作ろう」と決めてから形成していくことが多いと思いますが子ども



たちは粘土を触っている中でたまたまできた形を見て「飛行機みたい」「キーキになったよ」と作品を完成させていきます。子どもたちの自由な発想に日々刺激をもらっています。私自身、初めての以上見苦ラスで不安があったり、始まってからは「もっとこうすれば良かった」と反省することが多かったですが、子どもたちの笑顔や「先生大好き」の言葉に救われ、一緒に成長していけば良い



だという意識に変わりました。これからは一人ひとりの子どもたちとまっすぐ向き合い、楽しく過ごしていきたいです。

高村 結衣(保育士)

新年度の始まり

今年も新しい年がスタートしました。みんなつお兄さん、お姉さんになり、期待を持ちながら元気いっばいに過ごしています。新入園児のお友だちも、最初は不安そうでしたが今では沢山笑顔が見られるようになりました。

大きい子組の仲間入りをしたすみれ組さん。まだぶかぶかの制服や体操着の姿がかわいく、お支度やお着替え、身の回りの事を一生懸命取り組んでいます。すみれ組さんが困っていると、ふよう組さんが「手伝

てあげるね。」と気にかけている姿はとてもほほえましいです。製作が始まり、製作帳や行事製作など、各クラス担任の先生のお話を聞いて、じっくりと取り組む姿が見られます。「今日は絵の具を使って塗ったんだよ」「お顔上手に描けたよ」と嬉しそうに教えてくれます。またお外遊びは園庭から子どもたちの元気な声が響きわたっています。お友だちとオコッコをしたり、大好きな三輪車に乗ったり、砂場では見立て遊びをしたりと、毎日楽しく過ごしています。

子どもたちも楽しみにしているランチとおやつの間は、スプーン、フォーク、おはしを使って夢中で食べています。「おいしかったよ。」「苦手だけど頑張ったよ。」と毎日賑やかです。私自身今年度は上のクラスへの補助に入り、毎日手探りで保育をしています。保育士になって何年経っても新しい発見が沢山あります。日々模索しながら、子どもたちが安心して過ごせるよう、温かく見守り、また一人ひとりに寄り添って保育をしていきたいと思っています。

堀江 千夏(保育士)



恵明キッズ コスモス ビレッツジ



子どもたちの
信頼関係

清々しさを感ずる季節になりました。満開のお花を咲かせている木もあれば、一足早く葉を茂らせて新緑が眩しい木もありま
す。それぞれ段階は違いますが、一つ一つの生命が成長
していく姿を子ども達の
成長に重ねて見ている毎



日です。
今年度、つくし組〇歳児ク
ラスを担当させて頂く事
になり、早くも一カ月を過
ぎようとしています。初め
てお家の方と離れて過ご
す子ども達の為、安心感

トンとし
ていた子
も、だん
だんと
笑い返し
てくれる
ようにな

を抱いてもらえるよう、た
くさんスキンシップを取
り、気持ちの共有、その気
持ちを言葉にしていこう
と、目と目を合わせて語
りかけています。コロナ禍
での保育は、マスクをしてい
る先生の表情が見えない
不安もあると思いますが、
見えている顔のパーツ、そ
して明るい声、時には真剣
な声で伝えていけるよう
努力しています。

入園当初は、私
の顔を見て、キョ

り、また、小さな手を伸ば
してエプロンをぎゅぐゅと握
ってくれるように。少しずつ
ですが、日々の積み重ねが
信頼関係を築いてくれる
と感じています。
初めて参加する朝の会、み
んなで並んで食べるランチ
やおやつ、心地良さに包ま
れたお昼寝。今まで経験
した事がない一日に目を輝
かせキラキラとした眼差
しでこちらを見てくれる子
ども達。吸収力が無限大、順
応性が高いこの時期に、お
家の方と成長の一歩、歩の
瞬間に立ち会えるよう子
ども達から目を離さず心
の絆を深め生きる力の基
礎となる信頼関係の土台
を築いていきたいと思いま
す。

里見 沙織(保育士)



よっこりコスモスへ
私のまなこ

今年も沢山の新人入園の
お友だちをお迎えし、毎
日元気いっぱい声や歌が
聞こえてくるコスモスビレ
ツジです。泣いてしまうお
友だちもピアノの音や先
生の声に安心してニコッと
笑ってくれる時間が増え
ました。〇二のかぞく、
グーチョキパーの手遊び
をすると先生の真似をし
て小さな手を一生懸命動
かし、たのしく手遊びに参
加する姿が見られます。
小さいクラスのお友だち
は、広場でしゃぼん玉を追
いかけたり、砂場でお料理
を楽しんでいます。大きい
クラスのお友だちが帽子
を被せてくれたり、ボール
を拾ってくれるととても嬉
しそうにしています。ラン
チの時には、スプーンで上
手にすくおうと頑張つて
食べています。これから二
年の子どもの成長が楽し
みです。

土屋 友子(保育士)

と関わってきました。今、
手話が言語として認めら
れ身近に手話を感じる機
会が増えています。挨拶や
自分の名前など簡単な手
話から少しでも興味を持
ち広がりて欲しいです。
子ども達にも手話という
コミュニケーション手段につ
いて伝え、こんな方法、伝
え方があるのだというこ
とを知ってもらえたら嬉
しいです。
日々の生活で今自分にで
きることは何かを考えな
がら子どもたちと向き合
っていきたいと思います。

色とりどりに咲き誇る春。
また新しい一年がスタート
しました。子どもたちは、
その小さな胸の中に期待
や喜び、不安
や寂しさと、
色々な気持
ちをたくさ
ん抱いてい
ることと思
います。笑
顔と涙の四
月のスター
トから一ヶ
月が経ち、少
しずつ笑顔
が増えてき
ています。昨
日より



りも今日、
今日より
も明日、と
日々成長
していく姿
にたくま
しさも感
じます。
今年度、私
は大きい子
クラスの補
助に入るこ
とが多く、
毎日元気
な声に囲
まれていま
す。大きな
リュックを背
負って、一生
懸命階段を
登ってくる
すみれ組の
お友だち。
朝の支度
を覚えよう
と頑張る姿
が見られま
す。支度が
終わるとこ
にこにこ笑
顔で粘土遊
びを楽しん
でいます。
水色帽子に
なったゆり
組のお友だ
ちは、楽し
みにしてい
たドレミラ
ンドが始ま
りました。初
めての鍵盤
ハーモニカ
の前に、ワ
クワクドキ
ドキシな音
を出してく
ることがで
きました。新
しいことが
色々始まり
ます。更なる
成長が楽し
みです。
そして、一番
大きいお兄
さん・お姉
さんになった
コスモス組
さん。小さい
子の世話を
したり、竹馬
の練習を頑
張つたり、年
長組らしい
姿をたくさん
見せてくれ
ます。優しく
、強く、元
気に、色々
なことを経
験してほしい
なと思います
。一人ひとり
個性いっぱい
の子ども達
ですが、みな
違つてみな
ない、という
言葉がある
ように、一人
ひとりの今
の姿を受け
止め、見守
り、次のス
テップへの
手助けがで
きればと思
います。
森満 久美(保育士)



恵明コスモス児童センター

侍ジャパン 感動を ありがとう!

3月22日のコスモス児童クラブは、いつも以上の盛り上がりを見せていました。侍ジャパンが世界一をかけての試合です。児童クラブでは、この歴史的な戦い、WBC決勝戦をみんなで応援しようという事で大きなテレビをホールの真ん中に置き、思いの場所で観戦することとなりました。

試合が始まると子どもたちの視線が画面に集中し、「打て、打て、打てくれー!」「ピットが出るとウオー、やったー!!」、また、打てないと溜息をつくなど、子どもたちの反応を見ているだけでも私たちスタッフも楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

子どもたちの熱い声援が続く中、あっという間に試合は進み、ついに9回の裏のあの歴史的場面を迎えました。3対2で日本1点リード、2アウト3ボール、2ストライク、ピッチャー大谷選手、対するアメリカチームバッターは、マイクトラウト選手です。児童クラブ全体が静まり返り、息をのみました。そして、運命の瞬間、「空振り三振、バッターアウト」の実況の声とともに、「勝ったー!侍ジャパン最高ー!」と歓喜がコスモス児童センター中に広がりました。ハイタッチをしたり、大きな拍手をしたり、みんなが一体となって盛り上がりました。

この瞬間をコスモス児童クラブで普段野球に興味のない子どもみんなで一緒に応援し、そしてその活躍と成果を目の当たりにして喜ぶことが出来たことは、侍ジャパンからの大きな贈り物だと思います。選手のみならず、ありがとうございます。

脇 雅秀(センター長)



スポーツ観戦は!!

チームやプレイヤーに応援を送り、一体感を感じることが出来ます。

- 1 試合に勝つために戦うチームやプレイヤーを支援することで、自分自身がその一員であるような気持ちを味わうことが出来ます。また、他の人と一緒に応援することで、親近感や共感を感じることもできます。
- 2 さらにプレイヤーの技術や戦略を見ることが出来るため、見る人の知的好奇心を刺激して試合中に起こる出来事や戦略を考えたり、プレイヤーたちの技術を見ることによって自分自身のスポーツに対する理解を深めることが出来ます。
- 3 また、勝利や敗北に対する感情を味わうことが出来るため、感情的なつながりを生み出すことがあります。自分が応援するチームが勝利すると、非常に喜びや興奮を感じる事が出来ます。

恵明コスモス児童クラブの子どもたちの中には、趣味で野球をやっている子、ソフトボールが好きな子、全く野球に興味がない子など様々ですが、今回のWBC決勝戦のテレビ観戦は、コスモス児童クラブのメンバーみんなで一体感を感じることが出来たととても有意義な時間でした。



恵明キッズ サクラ ビレッジ



こども達の笑顔

今年度二十六名のお友だちを迎え、恵明キッズサクラビレッジの十二年目がスタートしました。

これまで保育室でつくし組さんと過ごしてきた私達が、今年度、主任となり、玄関に立つこととなりました。

園の玄関は、毎朝こどもたちが先生と最初に出会う場であり、同時におうちの方と離れる場です。



新入園の二十六名のお友だちとは、これまでオリエンテーションと入園式で顔を合わせた位で、マスクに眼鏡姿の私がかどもたちとどう映っているのだろうか、と思いつつ笑顔と気持ちのよい挨拶を心掛けて玄関に立ちます。

「う、わーん。」泣きながらおうちの方の体にしがみつく子。ぐっと涙をこらえながら二歩ずつ足を踏み入れる子。きよんとした表情で私の腕に抱きかかえられる子。その場のこどもたちの表情は様々です。そして、その様子を見守る

おうちの方々は皆、不安気です。

一日の園生活を思えば、朝の玄関は束の間ですが、そこは御家庭と園の境界線で、こどもたちにとっては「よしー行こう。」という一歩を踏み出すスイッチが入る場所であると思います。この「はじめの一歩」が無理なく歩めるよう、丁寧な対応に努めていきたいと思えます。



の財産です。今年度も笑顔の花がいっぱい咲きますよう、こどもたちがその子らしく園生活を満喫できますよう、全職員で力を尽くしていきます。

佐藤 貴子(主任)

つくし組の部屋から

この四月、つくし組には十六名の新入園児が入りました。初めてお母さんから離れてお部屋へ入る子どもたち。登園後は泣き声が響き私の声も届かない程で、そのような中でも朝の会が始まりピアノの音が聞こえると「瞬ピタ」と泣き止みじっと耳を澄ませて聞いている子ども

たちの姿がありました。本当に少しづつではありませんが、このよ

らできる事は自分で進め泣いているお友だちを見ると顔をのぞき込み頭をなでてくれる事もありました。小さいながらもクラスをリードしてくれる存在に心強く、かつこれからの成長をもっと支援していきたいなと思わせてくれました。

鈴木 智子(保育士)

が、このよ

うな経験

新一年生のかわいらしい笑顔と、お兄さん・お姉さんになった子どもたちの笑顔で、元気いっぱいの子供たちです。初めて



た、外遊び

このように可愛いつくし組さんの笑顔を大切に、これから沢山の成長を見守りながら共に学んでいきたいと思えます。

を案内したり、あそびを教えてあげたり…。緊張していた二年生たちも、いつの間にか気持ちや和らぎ、楽しそうにあそび始めていました。上級生の優しさにほっこりすると共に、何だか頼もしく感じています。上級生の優しさもあり、学年の壁を越え、

「○○であそぼうよ」「○○したい」など声が飛び交い、皆が楽しく元気に過ごしています。その中でも、男の子はベイベレードで「GOシユート」と大興奮しながらバトル。女の子は、レゴやぬり絵に

熱中しています。そして、やはり何よりも外遊びが大好きで元気があふれています。今年度が始まり、少し心配することもありますが、元気に過ごして、私たちがパワーをもらっています。

高橋 好美(保育士)

段々と

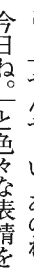
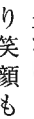
表情も豊かになり笑顔も増えていきます

した。赤ちゃん達はベビーカーに乗ったり抱っこでお散歩をしたりすると外気の暖かさや保育士の側にいる安心感とで気持ちがよくなりウトウトと眠り

増えている分、自

「ただいま」と部屋に入り、「せんせーい。あのね、今日ね。」と色々な表情を浮かべながらお話をしてくれる子どもたちに、毎日幸せを感じています。

高橋 好美(保育士)



恵明キッズ

ローズビレッジ



のびのびと豊かに育つ環境を

今年度四月より、恵明キッズローズビレッジの園長をさせていただくことになりました。まだ慣れない事も多くありますが、子どもたちの笑い声が元気をくれ、自分自身が何が出て来るのかを模索する楽しい日々を送らせて頂いています。私が恵明学園を知ったのは、高校生時代のボラ

ンティア活動でした。先輩から声をかけて頂き、芙蓉台保育園(現・フヨウビレッジ)のおたのしみ会のお手伝いに参加させて頂いたのが始まりでした。当日は、〇歳から五歳の子どもたち保育士さんと一緒に舞台衣装を着せたり、片づけをしたりするお手伝いをしました。発表の様子も見させて頂き、初めて見る子どもたちの舞台は、真剣でまるで十代の私には、とても心を揺さぶられる発表でした。それは今も



みんなでチャレンジ!

変わらずドキドキする緊張感と、ワクワクする自信に満ち溢れる子どもたちの姿に毎年感動させられています。子どもたちには無限のパワーがあり、可能性があり、未来があります。「子どもと共に」「子どもには子どもと世界がある」と恵明学園には大事にしている言葉があります。保育士さん達は、子どもを一番に考え、自分の保育を見つめ直し奮闘しています。毎日が活気溢れる子ども園ですが、これからは変わらぬ子どもたちが安心して生活が送れるのびのびと豊かに育つ環境を日々考えていきたいと思えます。みんなが「こども園楽しいね。」と言ってくれる園になるように努めていきたいと思っています。

内田 順子(園長)

四月の入園進級式から早いもので、五月が経ちました。今年度より組の担任になり、個性豊かな、元気のよい子どもたちとの生活が始まりました。「すみれ組さんが先にトイレに行くから、ゆり組さんは歯磨きをするんだよね。」と子どもたちも生活の中で活動の順番やルールがわかり、自主的に取り組もうとする姿が見られるようになりました。



ゆり組さんになってドレミランドや体操教室も始まり、新しく挑戦することが増えました。製作内容もすみれ組さんの時より少しレベルアップし、姿勢を正して製作に集中すること、分からなくなったら先生に声をかけるなどのお約束も増えました。「製作を始めたいですか?」

鈴木 友美(保育士)

と子どもたちに聞くと「いいですよー」と手をお膝にピツと姿勢を正して答える姿に、ゆり組さんになった自覚と頑張る様子が見られました。こどもの日に向けたこのほりの製作時には、自分のお顔を描いてみようという話すと「描けるよーだっつてゆり組さんだもん。」とニコニコと答える姿がありました。塗り残しがないように丁寧に塗ったり、「わたしウインクの目がいい!」

「ぼくは口を開けてにっこり笑う形にする。」と思いきい思いの考えを持ち、表現したりとゆり組さんらしい成長を見せてくれます。ゆり組は、こども園の生活の中では小さい子の面倒を見るお兄さんお姉さん。そして時々年長組のばら組さんの助けもかりてそのかっこいい姿に憧れを持ち、たくさんの感情を育て伸びていくクラスだと思えます。この一年様々な経験を通して、みんなでチャレンジする気持ちを大切に過ごしていきたいと思えます。

倒を見るお兄さんお姉さんが経つと泣くことも少なくなり、子どもの方から手を伸ばしてくれるようになります。保育者の顔を見てにっこりと笑顔を見せてくれたら、「おいで」と声をかけるとハイハイで来てくれたりする姿が見られるようになります。私達も安心します。コロナ禍が三年続き、マスクをつけての保育が続きました。私は〇歳児を中心に担当して三年目となりますが、この間、ほぼ素顔を見せることなく生活をしてきました。子ども達にとって私達はどのよう

笑顔を大切に 四月は元気な泣き声でスタートします。新入園のお友だちは、お母さんと離れての初めての生活に不安いっぱいです。保育者の抱っこに慣れながら安心して、少しずつ落

ち着いていきます。一週間が経つと泣くことも少なくなり、子どもの方から手を伸ばしてくれるようになります。保育者の顔を見てにっこりと笑顔を見せてくれたら、「おいで」と声をかけるとハイハイで来てくれたりする姿が見られるようになります。私達も安心します。コロナ禍が三年続き、マスクをつけての保育が続きました。私は〇歳児を中心に担当して三年目となりますが、この間、ほぼ素顔を見せることなく生活をしてきました。子ども達にとって私達はどのよう

マスクで顔の表情が半減している分、声の表現やリアクションに注意して保育をしてきたつもりですが、本当に正しく伝わっているのかと不安になることもあります。「三つ子の魂、百までも」と言われる大切な時期を、保育者として豊かな表現を心がけ、子ども達が安心して過ごしていけるよう、日々の保育を子どもと共に楽しく進めていきたいと思えます。

新型コロナ 行動規制が緩和 され...

コロナ禍によって、子どもたちの心にも大きな影響がありました。子どもたちが安全に遊べる環境を提供し、適切な支援を行うことで、子どもたちが健やかに育つことができるようになります。こども園では、保護者の皆様とのコミュニケーションを密にし、日々の園生活において、また、楽しい行事なども取り入れ、子どもたちが家庭と園で安心して過ごせるようにサポートをしていきます。

この日、園児は笑顔する!!

5月13日(土)
三島ロータリークラブ主催
第1回こどもサッカー大会参加

第1回 サクラエンゼルス 優勝

恵明キッズサクラビレッジ



市内のこども園、幼稚園、保育園の園児約100名が集まりました。恵明キッズサクラビレッジのサクラエンゼルスが栄えある第1回優勝を飾りました!



フヨウ FCフヨウ



コスモス コスモスターズ



ローズ スマイルローズ



ローズ ピーターパンローズ



サクラ サクラエンゼルス・サクラジャパン

